

協議概要

発言者	発言内容
読書活動についてのグループ協議	
竹内委員長	○ 目指す子どもの姿「積極的に図書館を利用し、本で調べることができる子ども」、目指す大人の姿「自分の生活の充実や仕事・自己啓発のために本を読む大人」について意見をお願いします。
森山委員	○ 「目指す大人の姿」という点で自分を振り返ると、読書をしていた時期としていない時期があった。今年は結構読んでいる。読むきっかけがあることで、継続的に読み始めている。読むきっかけになる機会、イベントを考えていくと良いと思う。
小島委員	○ 人材育成事業である「読書サポーター養成研修会」を開催した。今年度も計画をしている。市内にボランティアが3団体あるが、その一つに「研修を受講した人が入会された。」と聞いた。今年度も引き続き、入門コース、ステップアップコースを計画している。次年度までの事業と聞いているが、県と連携しながら、ボランティア団体同士の交流も図れると良い。
相良委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学生への調査で「読書が好き」と答えた数値が上がってきていると報告を受けたが、高校はどうなのか。 ○ 勤務校では、中学生がよく利用している。高校生は読書が好きな生徒は利用しているが、そうでない生徒は、図書館に来る必要が無いと来ないという状況である。 ○ 学校では、GIGA スクール構想で様々な ICT 機器が入ってきた。その中で、学校図書館が取り残されている感じがする。うまく IT 機器を使いながら、図書館も併用しながら、を目指している。 ○ 生徒と、グーグルクラスルームを活用した情報交換ができるよう、動き出したところで、試行錯誤している。
井澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画を長いスパンで考える時、人が歳を重ねていくことを想像する。宮崎で生活をして約12年になるが、他の都道府県と違うのが、読書に関わる職員や、図書館をよく利用する人が固定化していることであると思う。小中学生については、ある程度、肯定的な結果が出ている。それは、司書を配置したり、母親の啓発があったり、お金が動いたりしたからではないかと想像する。延岡エリア、山間部の整備については、ずっとそのまままきている10年間ではないかと思う。宮崎市の中学校には読書アシスタントがいるが、昼休みにパソコンを動かす認識である。質が向上していないのではないかと思う。その生徒が入試を経て高校に進むのだが、司書がいる学校では、サポートを得られるが、そうでない子どもたちは、指標に対し肯定的な結果を出す県民に育っているのかと感じる。それが、大人についての数値に表れているのではないかと思う。 ○ 県立図書館が構築しなければならないコレクションと、県民が求めているコレクションが違っているのではないか。選書基準を維持することは大切であるが、リアルな姿ではなく、こう使って欲しいという願いが色濃く出ているのではないか。 ○ 中高生以降の支援をどうするかが、大人の読書活動に関わると思う。小学生では、宮崎市が行っている取組をいかに司書、本屋がない地域に広めていくかではないか。

中山委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回推進委員会でも紹介したが、小学校教員の立場から勤務校の取組を紹介する。月1回、週末にメディアコントロールと併せて「読書の日」を設定している。その日は本に親しむ日で、宿題無しとし、開放的な気分させながら、読書に親しめるようにしている。教員の意識も変わり、図書室に子どもたちを連れて行きたいと思うようになってきている。 ○ 国語科との関連で、教科書にある教材文を読み、面白いところを友達に紹介しようという「本は友だち」という単元がある。学級内だけでなく、他学年で掲示をし、人と人が繋がる取組にする予定である。 ○ コロナ関係で130万の図書費が配分された。国語科の発展図書をすべて各学級に配置するよう、整備している。子どもたちが手軽に、身近に本に親しめる環境作りをしている。 ○ 課題として、総合、理科、社会科等の学習における関連本が学校図書館の蔵書として大変少ないことがある。少しずつでも整備していきたい。 ○ 図書館サポーターが西都市で雇用されている。昨年度は週に何度か勤務していたが、今年度から週1回になった。学級担任が学校図書館担当で毎日、大変忙しくしている。 ○ 国語との出会いがきっかけになると良いと思う。今年度図書を整備するので、この本のこの作者の他の物語はどんな本だろう、と読書が広がっていくと良い。
小坂委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勤務している学校では、昨年度は新型コロナがあり、思うようにできなかった。今年度は、来館者800人増、貸出100冊増と手応えを感じている。力を入れれば、来館者数、貸出冊数は伸びると実感している。 ○ 勤務校は、実業高校であるが、科によって読む生徒と読まない生徒の差が激しい。機械科の生徒がオリエンテーションで学校図書館の使い方として本を借りたが、その際「俺初めて本を借りたかもしれない。」という発言があった。音読をさせると、「観光」を「かんびかり」と読む。平仮名も読めない生徒がいる。「本が好き」と言える生徒は確かに増えていると思うが、全く本を読まないまま進学している生徒もいるので、本を読む習慣を付けさせたいと思い、四苦八苦している。「積極的に図書館を利用し本で調べることができる子ども」について、経営情報科は喜々として利用し、調べているが、できるのは一部のクラスである。 ○ 小学校は活発で、様々なことに取り組んでいるのに、中学校では部活等で忙しいのか抜けていて、そして、高校でまた一生懸命頑張っているという印象を持っている。小中高の積み上げが大切である。今、グラデュエーションポリシーとか、スクールポリシーとかあるが、読書に関しても、各学校のスクールポリシーとして出して欲しい。
竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元紙の「みんなの作文」の選評をしていて、本を紹介する作文に出会うが、再読する、もう一度読みたくなるような本に出会っている子と、出会っていない子がいる。小学校の時に、再読する本、何度も読んでいた本がある子は中学校でも読むと思っている。しかし、たくさん読んできたけど、何度も読む本と出会っていない子は、中学校での部活の忙しさで本を手放していくのではないかと思う。 ○ 再読をさせるという方法は結構難しく、読書を教える道具と思っているうちは届かない。大学生を見ていて思うことがある。論文は基本テーマがあり、テーマについて話している人がいてどう聞いてきたかで意見を言うが、多くの大学生は先に自分の意見を言う。人の話を聞いて考えるという学習

	<p>の習慣が育っていない。人に出会いに行くつもりでないと本には出会えないが、そこが培われていない。追求したいテーマが有り、それについて発言している人がいて、面白い発言をしている人が見つければ、その人が他にどのような言っているかなと本を探しに行く。しかし、まず自分の意見を言う。他者感覚の育ちが同時に育っていないと中高生で本を読むことはない。高大連携で課題研究の指導をするが、ほとんどテーマについていきなり自分の意見を言うので、そこが育っていないと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ GIGA スクール構想があるが、教えるの道具として捉えているので失敗するのではないか。学びの道具として使うときは、テーマが有り、アプリを使い表現し、協同するための道具として使うときである。AI が間違いを指摘し、復習する使い方は教えるの道具である。学びの道具になる仕掛けが必要だが、学校現場で読書は教えるの道具になっていないだろうか。人の意見を聞くために、電話すればよいのだが、どう電話したらよいのか分からない場合は、発言している人の本を読むという発想に立たないといけない。本で調べることができる子どもは、解決したい課題を自分以外の人の力を借りて解決しようとする子どもである。そこが育っていく仕組みがいるのではないかと思う。 ○ 学校の授業において、教科の力量を高める仕組みがない。そのため「6年生に「今まで覚えている作品何？」と聞いても出てこない。印象に残った作品が出てくるような仕掛けがないといけない。読書は生涯学習なのだが、学校教育にもう少し切り込んでよいのかと思う。 ○ 小学校の学校図書館改装に関わったが、蔵書構成として4類が少なかった。職員研修も行わなければいけないと感じた。枠組みは正しいと思うが、総合的なプロジェクトになっていない。町村のある地域に指定して図書室改装をする、研修もする、絵本を入れるお金を持ってくる、サポーターも付けるといった総合的な施策をしたときにどこまで変わるか見てみたい気もしている。うまくできると変わるのではないか。 ○ 「宿題が無い。」との意見があったが、学校では無くす改革は増えてきている。定期テストや宿題を無くす中学校は増えてきている。市内の小学校でも宿題を無くしている学校がある。読書をするために無くすといいものは何かを一度考えてみるとよいのではないか。 ○ 私は、生涯学習としての読書は一切していない。仕事で読んでいるため、直木賞とか芥川賞とかの作品は読まない。教育系の本ばかり読んでいます。楽しみとしての読書と課題解決するための読書は、どちらが足りないのか、どちらが必要なのかイメージがついていない。高校生の時は文庫をたくさん読んでいたし、楽しみで読んでいた。ビブリオバトルは楽しみの読書とみている。本で調べることが趣味にする子はあまりいないのではないかと思う。中高生の支援をどう考えていけばよいか意見をお願いします。
井澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す大人の姿に「本で調べることができる」とあるが、本だけでなくもよいのではないか。 ○ 高校生は就職する人も進学する人もいる。大人に向かっていくために毎日充実した学習をしている。探究のための読書、情報活用はスケールの小さいもので良く、そっちにむかっていく子どもの方がアカデミックになろうとしているのではないか。 ○ 二つの領域、理系教科の課題であっても、文系の中の隠されたメッセージで覚醒し、新たな発見に結びついたというニュースをよく見る。分断するのではなく、深まれば深まるほど本人の脳の中で混ざり合い、参考文献のり

	<p>ストには載っていないが、本人の知識を醸成する上では大切な活動であるので、どっちが多くとかどっちが少なくなるとかどっちが頑張っている、頑張っていないというものでは無いと思った。</p> <p>○ いくつかの県立高校を訪れたとき、理系思考であっても文学的な素養がたくさんある子は多くいた。24時間の使い方は本人の自由であるので、計画の中でどうこういうものではないのではないのか。</p>
竹内委員長	<p>○ 大学人としては、何故読まないといけないのかと問われたら、「本は議論を経た意見だからです。」と答える。週刊誌やネットニュースではなく、書いた人以外のチェックが入っている点は意味がある。岩波新書は選ばれた人しか書けないので、「その分野の第一人者は岩波新書から得るのですよ。」と説明している。</p> <p>○ 教養というとならえ方が古い、越境する知が教養なので、自分の知らなかったジャンルに触れる機会があればあるほど、自分が追求するテーマは豊かになっていく。そのために、紹介する人が必要である。高校の教員には様々なジャンルの人がいるのに、あまり有機的に生徒に関わらない。高校の先生は学歴も高いので本も読んでいる人が多い。理解力という点では、高校の教員はやはり高い。たくさん本を読んでいる経験が多いが、それを高校生に広げている感じがあまり伝わってこない。せっかく教養を持った先生がいるので、そういうところで触れ合うとよいのかなと思った。</p>
中山委員	<p>○ 教師の授業を何とかしないとけないという趣旨の話が先ほどあったが、学校現場には、若手の教師が多く入ってきている。若手の教師に、授業とはとか、指導案の書き方等指導しているが、授業をどのように組み立てているのか聞いたら、YouTubeを参考にしていてとの答えであった。現在、さまざまな市町村が動画を出している。若手の教師は鵜呑みにしており、自分で考えることをしない。この点は課題だと感じている。ネットで検索すると、多くの指導案が出てくるが、どのような人が作っているのか考えず使っている。自分の頭で考える、分からなかったら聞く、が基本であるが、聞くことができない教師が存在する現状がある。教員採用試験の倍率も低くなっている。授業から本に繋げ、読書を通して人と人とが繋がるという意味で課題であり、子どもたちに接する教師がこのようなことで良いのか、と今までの意見を聞きながら感じている。</p>
竹内委員長	<p>○ 読書に親しむ大人を、読書習慣が身につけていない子どもにどう繋げるか、読書に親しむ大人に、まだ親しんでいない大人をどう繋げるか。姿が成立している人たちは、どのように広げていけるのか、繋げていけるのかを構想されていくと良い。読書サポーターなどの読書人を県民の皆様に繋げていく活動も必要である。</p>
中山委員	<p>○ 就学前、小学校の時にたくさん読み聞かせをしてもらい、お話大好きだった子どもが、高学年になるにつれて読書から離れていく。やりたいことが他に見つかる子ども出てくるので、系統性をもち、うまく連携していかないといけないと感じる。</p>
竹内委員長	<p>○ 読み聞かせで子どもの時に読んでもらい、親になり、読み聞かせサークルに誘われ、参加するともう一度子どもの時の本に出会うが、自分の子どもの卒業後に関わられるのが難しい。そこをサポートする体制があれば、中高生で</p>

	<p>読んでなくても、大人になってもう一度機会があれば、参加する人は結構いるのではないか。自分の子どもが卒業した後、関わり続けるサポートがあると循環が連動していくのかと思う。</p> <p>○ 本で調べる子どもたちの循環がうまくいっていない感じがする。仕事上、調べている人は多くいるのに、それが子どもたちに繋がっていない。調べ活動で色々な本を読んで調べたという経験があり、中高生で文学作品を読んでいないが、大人になったら調べることができればよいのではないか。継続する必要性はないのでは。読んでいた時期と読んでいない時期があるように、循環が大きなスパンでよいのではないか。</p>
井澤委員	<p>○ 趣味としての読書を確保するのは、時間がある程度ないと難しいのではないか。他県で、学校図書館を地域の人に開放し成功している事例がある。異年齢とのコミュニケーションが生まれる。学校図書館はバーコード化しているところが多くなってきているので、地域の方に貸してもいいのではないか。</p> <p>○ 様々な活動をしている人のコミュニケーションが分断されていると感じている。読んでいる量もテーマも分かれすぎている。道路は毎日自分が通っているので、使っている実感があり、お金を使われても腹が立たないのではないか。しかし、図書館に行く人が一部の家庭の子どもたちだったとしたら、使わない家庭の方には予算を使われる事に対する肯定はない。どのようなテーマのものがあるといいのか大規模なマーケティングをしようか。そうすれば、欲しいものが図書館にないという点が運営側に伝わり、少しでも動いていくのではないか。若い人はスマホだったら調査に答えやすいのでは。</p>
竹内委員長	<p>○ 自分は本を買うが線を引くので廃棄になる。線を引かなければ寄贈できる。図書館の教育の棚にない本も結構あるので、寄贈すれば有効活用出来ると思うが、そのようなタイプの方は結構いるのではないか。折っている程度なら大学図書館に寄贈している。</p> <p>○ お金が入ってくる仕組み、本が入ってくる仕組みの循環を考えてはどうか。</p>
事務局	<p>○ これまでの委員の意見を聞き、幼小中高期の読書の週間付けは大切であると感じた。高校卒業までに、読書の楽しさを知る子がたくさんできれば、大人になって再び読書をする。そのために、目指す子ども像が幼小中高ではっきりとできるとよい。</p> <p>○ 家庭教育支援の大事さも感じた。PTA におすすめの本を紹介するなど、PTA との協力体制があるとよい。学校・地域・家庭との連携は大切だと思う。学校での大事な時期と家庭を結ぶ仕掛けがあると良い。大人が家で本を読む姿を見たら、自然と子どもも本を読むのではないか。そのような家庭がたくさんできてくるとよい。</p>
事務局	<p>○ 担当として、大人の読書をどう盛り上げるかを考えている。自分自身、以前はあまり親しんでおらず最近本を読み始めたが、1冊読破すると次にいこうとなった。勉強のためよりは、趣味のための読書である。</p> <p>○ 7分間の読書は、音楽鑑賞よりも高いストレス軽減効果があるらしいことを聞き、7分くらいだったらと読み始め、1冊読破すると面白かった。次の本を読んでみようかなというきっかけになった。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの話を聞き、教える道具としてしか読書を使っていなかったと反省した。楽しむことをより前面に押し出した読書を教えれば、中学生になっても、高校生になっても、自分の好きな作家の本を読んだり、活字に親しんだりする子どもが育ったのではないかと反省した。 ○ 現在、すきま時間に本を広げることがを繰り返して本を身近にする「1 bag1book 運動」を課内で行っている。
竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勤務時間中、2時間の研修時間が入っていて、本を読むことになっている建築会社があった。建築という仕事自体が色々な人と仕事をしなければならぬので、文化的素養をつくるという意味合いもあるようである。企業によっては様々な取組をしているので、それが広がっていく取組もあるのではないか。 ○ 先ほど、国語の教科書が変わり、紹介図書を学校図書館に受け入れたと話があったが、国語の教科書に掲載される本は、今の1年生が6年生になるころには大体廃刊になっている。今のこのタイミングで購入しないと購入できない。1年生の保護者に1冊ずつ買ってもらい、読んだ後に寄贈してもらえばその後も使える。地域、保護者を取り込んだ取組ができると良いのでは。CSが多くの学校に導入されてきており、学校図書館に公共図書館の機能も持たせる学校図書館のあり方を考える時期にきたのではないか。地域や保護者の方が「自分の子どものために本を購入していきましょう。」という取組等があればよいのではないか。
井澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勤務している学校では行っている。保体部の役員が修理ボランティアとして関わっている。今年度から、読み終わった本を入れる箱を参観日に置いている。選書基準から外れる本も集まるが、フィルターを掛け、子どもたちに提供しても良い本を受け入れているが、その本は人気である。1回目は88冊の寄贈があり続くとよい。 ○ SDGsの視点からも小さな事を実感し、大人になった時に同じ事をするとうい。 ○ 日南市には自分の読み終わった本を置く、持ち帰ることができる取組があると聞いた。
竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本日は、循環をどう作っていくかという協議内容だったと思う。取組をしている人はいるので広がっていくと良いと感じた。

読書バリアフリー計画についてのグループ協議

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書バリアフリー計画は、宮崎県生涯読書活動推進計画の中に入れる計画である。現在の宮崎県読書活動推進計画の「家庭における読書活動の推進」「学校における読書活動の推進」「地域職場における読書活動の推進」の後に、「読書バリアフリーに関する計画」を入れ、最後に「県民総ぐるみによる推進体制の充実」とする案である。 ○ 素案には、1 図書館の利用に係る体制の整備、2 サービスの提供体制、3 端末機器及びこれに関する情報の入手支援、4 製作人材・図書館サービス人材の育成について記載している。この4点の内容について御意見をお願いしたい。
高八重委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット等で検索できない人向けに新刊の情報を DAISY で知らせていただくとありがたい。利用する人の好みのジャンルもあると思うので、どのような本が読みたいかを利用者が伝え、そのジャンルの前期、後期で分けて知らせていただくとありがたい。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館という環境がとても静かに利用しなければいけない環境のため、声が出てしまうなど、障がいによっては気を使って行きづらい時がある。先ほどの図書館見学の際、新しいバリアフリーサービスのスペースがあったが、スペースがあるのであれば、「お互い様ルーム」のような場所があると使いやすい。 ○ 先ほど図書館のバリアフリーサービスを見学した際の拡大読書器について、いいものがあると思ったが、館内の真ん中にあり、緊張して使いにくいのではないか。また、利用対象の表示がなかったため、対象者が分からなかった。 ○ 駐車場から濡れずに来ることができるルートがあるとよい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいの特性に応じ、柔軟に対応できるような図書館ができるのではないか。拡大読書器については、貸し出しができるタブレットであれば、自分の好きな大きさに文字を調整できるようになるが、1台30万ぐらいかかるため、台数を確保するのは難しいと思う。 ○ 情報の収集の仕方が全然違うので、それに応じた、体制を作らないといけない。皆がこのような考えを持つことが必要である。 ○ 発達障がいの子どもたちへの ICT 活用法など、様々な研究している大学を活用すると、発達障がいの方にも対応できる。 ○ 障がいの特性というところをもう1回掘り下げて分析していくと、何が必要なのかが見えてくる。
内勢委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの意見をまとめると、障がい特性に応じて柔軟な対応が必要である。また、時間、スペース、情報をどう入手していくか、などを整理していくことが必要である。ということになる。
大賀委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚障害者センターでは点字、音声版を制作しているが、ボランティアの問題がある。ボランティアは、無償でやってくれている。1年間の養成講座を経た上で、少しずつスキルアップしていただき、長い方は30年やってくれている。そのため、高齢化が大きな問題である。さらに、ボランティアを始めようという方が少ない。問題は色々あるが、多くの方にサービスを提供するのであれば、ボランティアの補強をしていかなければいけ

	<p>ない。</p> <p>○ 今回の素案に連携という言葉がある。視覚障害者センターは小さな施設であるが、公立の図書館との手の結び方を考えていきたい。これまで、なかなか会う機会もなかったが、今回設けていただいてありがたい。</p>
中島委員	<p>○ ボランティア養成については、読み聞かせのグループの方に音訳を頼むといった繋がりでもいいのではないかと。得意分野を生かせるような形で補強していけるとよい。</p> <p>○ 学校では、図書を入れる時も寄贈が多く、欲しいものが買えない現状がある。また、学校図書館については、図書室を教室に変えないといけない現状がある。素案には学校図書館についての記述もあるが、これが実現するとすばらしいと思っている。連携は非常に大事であり、色々なジャンルの方が、協力し合えばすごく面白いバリアフリー計画になるのだろうと思った。</p>
高八重委員	<p>○ 障がい者はサポートにより DAISY で様々な情報を得ることができるが、高齢者もサポートを受けることはできるのか。</p>
日高委員	<p>○ 県立図書館の DAISY 図書は、高齢者の方も含め、読むのに不自由を感じる方は利用できる。拡大読書器は、誰でも使えるが先ほど指摘もあったように、表示や PR が必要と思っている。</p>
高八重委員	<p>○ 視覚障がい者の場合は、お願いすれば、点字郵便として無料で配送されるが、高齢者も無料配送サービスを受けることができるのか。</p>
日高委員	<p>○ 県立図書館の DAISY 図書は、高齢者の方も含め、読むのに不自由な方は利用できる。拡大読書器は、誰でも使えるが先ほど指摘もあったように、表示や PR が必要だと思った。</p>
高八重委員	<p>○ 田舎はポストが離れた所にある。今は高齢になったら、免許証を返納している人が多い。うちは郵便局まで 1 キロ程度あるが、山の上あたりに住んでいる人たちは、それ以上に結構な距離がある。点字郵便の場合は、郵便局に電話すれば、職員が取りに来てくれるありがたいサービスがある。高齢の方でどうしても読みたいという方がいらっしゃれば、難しいとは思いますが、可能な限り配送サービスをしていただけないか。特に、一人で住んでいる方にはいい老後を過ごせるのではないかと。</p>
内勢委員	<p>○ バリアフリーというのは、障がいのある方だけではなく、高齢者、妊婦など、様々な方にとって必要であり、すごく貴重な意見である。</p>
田中委員	<p>○ これまでの話を聞くと、やはり、地域格差が出てしまうと思った。</p> <p>○ 障がいがある方に関しては、手厚いフォローがないとなかなか利用ができないため、国や県の制度は大変良いと思った。</p> <p>○ 高齢者については、今後も多くなりサービスを受けたいと思ってもなかなか受けられない現状がある。スマホを使い慣れている高齢者もいるので、スマホや翻訳機を活用し、どうしてもという時に公的な機関のサービスを受けられると良い。また、サービス内容の広報も大切である。</p> <p>○ オリンピック、パラリンピックでピクトグラムも話題になったが、図書館のお手洗や通路など、様々なところに誰でもわかりやすい表示があると良い。</p> <p>○ 支援学校では、1 人一つの ICT 機器を持っている。就学奨励費で購入が可能であるので、使い方が分かれば学校外でも使える。著作権の問題があるとは思いますが、映画の宣伝のように、面白い部分だけ紹介されるサイト</p>

	<p>があるとその本を読みたくなるのではないか。読みたくなると次に、借りる方法を考えると思うが、そのサイトに所蔵している図書館がわかるQRコードが表示されていれば実際に借りるのではないか。</p> <p>○ 借りたい思いはあっても、問い合わせ先がわからない部分もあるため、図書館がアピールしてもらえると行くようになると思った。</p>
中島委員	<p>○ 地域格差は様々なところに現れている。生活支援機器一つとっても、地方自治体によって、支援される金額が違うため、この点も含めた形で見てもらうこと、大きい目で見るとは必要かなと思った。</p> <p>○ 都市圏の公立図書館は対面朗読サービスがあるようだが、宮崎県はどうか。</p>
日高委員	<p>○ 県立図書館には対面朗読室があるが利用はない。部屋はあるので、この部分を読んでくださいというような簡単なものであれば、対応可能とは思う。本来は、対面朗読は研修を受けた方が行わなければならないが、それを受講し、資格を持っている職員はいない。</p>
大賀委員	<p>○ 視覚障害者センターでは対面朗読をやっているが、部屋はない。そのため、他の部屋を使い、週に1回、希望者のニーズに応じ、その方が持ってくる本や資料を音訳ボランティアが読んでいます。音訳ボランティアは、1年かけて資格取得のための勉強をする。加えて守秘義務もお願いしている。</p>
内勢委員	<p>○ 実は色々なサービスがあり、一般の人たちが知り得てない。</p> <p>○ 人材育成が課題ではないか。</p>
元長委員	<p>○ 日常生活器具の援助に関する担当であるが、地域により、援助対象が違う現状がある。現在、市町村がどのような支援をしているのか情報を集めている。集めた情報をまとめ、公表を可とする情報については、市町村に提供したい。他市町村の取組を知り、それぞれの取組を促すきっかけになればよい。</p>
中島委員	<p>○ 市町村財政により支援が違う点は理解している。現在の機器についてアンテナを張ってもらい、どのくらいかは最低限知っていて欲しい。古い形での支援の値段であると、相談が大変である。調査を行い、結果を市町村が見比べると、それぞれ考えるところもあると思うので、ぜひやっていただきたい。支援についてはその都度、市町村に出向いてお願いするが、なかなか改善につながっていない。</p>
元長委員	<p>○ 情報を集め、市町村に提供する取組は、推進していきたい。</p>
成合委員	<p>○ 現在、3つの柱を示しており、バリアフリー計画は、4つめの柱にする計画だが、現在の3つの柱に組み込んでいくとどうなのか。別個に取り上げても問題ないと思うが、現在の3つの柱の中に組み込むとすればどうなのか。</p> <p>○ 今日器具の話が色々出たが、使うのは人なので、人が意識しないと使えないのではないかと。また、当事者の話をしっかりと受け止めることが大切である。</p>
内勢委員	<p>○ 日常の中で実践できることが大切という点は本当にそう思う。</p> <p>○ 当事者の意見、希望をどう拾うか、本日の意見だけでなく、この場にいらっしやらない方の意見もどう拾っていくかは今後の課題である。</p>